

# ふかさわ

## 深沢中学校の防災教室

### 地域がサポート

避難を余儀なくされる災害のニュースが続きます。皆さんもハザードマップや避難方法を確認されていますか。

深沢中学校では、学校での防災教育として、昨年度に続き2回目となる防災教室を実施しました。

そのねらいの一つは「災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つ行動ができるようにする」ということです。その学びの中で、地域に貢献する人材の育成を図ることにもなります。

今回は、かまくら防災士ネットの方の協力のもと、3年生は5月30日に、福祉的要素を含んだ避難所設置、運営体験を実施しました。6月2日に、2年生は学区の防災マップを作成し



ました。1年生は4クラスを8班に分け、深沢地区の自治町内会、地区社協、民生委員児童委員、地域包括支援センター等、地域のこをよく知るサポーター(17名)の説明を聞きながら、「洪水・内水危険箇所コース」「土砂災害危険箇所コース」を1時間余り歩きました。

★生徒の感想から  
・他人事のように思っていた災害や事故が身近にあることだとかわかった。  
・通学路は安全なのだと思っていたが、実は危ないところもあることがわかった。  
・地域の方のお話で、地元になんかものがあった！と、地元の歴史も知ることができた。

## 防災士とは



災害大国である日本で、日常生活での防災対策について、また災害発生時に適切な対応をとれる知識と判断力をもつ人材を育てようと、防災士制度が導入された。NPO法人 日本防災士機構が認定した全国で20万名を超す防災士が、防災や減災活動のリーダーとして活動している。市内では2020年に発足した「かまくら防災士ネット」としても活動している。

## 今年こそ！

### 深沢地区社協バザー

地域の方の献品やご協力によって、毎年開催されてきた福祉バザーですが、コロナ禍で中止を余儀なくされてきました。バザーの収益は、深沢地区社協の様々な事業を支える自主財源のための大切な活動となっています。

11月20日(日)に開催できるよう、バザーの規模や運営方法などを工夫して検討を進めています。無事開催の折には、皆様のご支援、ご協力をお願いします。

## 放課後かまくらっ子 やまさき

深沢地区社協では地域児童交流事業の一環として、6月13日の放課後、山崎小学校の児童47名が、地域の大人18名の指導のもと、割りばし鉄砲作りを楽しみました。子どもたちは出来上がった鉄砲で試し打ちをして、的に当たると大きな歓声を上げていました。



自分で作った鉄砲に、思い思いの色を塗って完成です(ピロティにて)

## 「地域でできる高齢者支援」

### 事例発表会

6月17日深沢学習センターで、深沢地区連合町内会主催の事例発表会が行われ、梶原山町内会から「梶原山ネットワーク会議」の取り組みについて発表があり、民生委員を中心に72名が参加しました。

町内会を含めて、高齢者支援に関わる団体や機関のつながりを図るため、この会議が生まれました。この会議を通して、様々な統計データの収集・分析やアンケート調査により、地域の課題を整理しました。それを基に、日常生活、外出、買い物、孤立を避ける、など地域でできる高齢者支援を具体的に考え、現在、できるところから支援が始まっています。

同町内会は、高齢者支援活動が盛んで、他の自治町内会の参考になる取り組みも多く、今後の活動の広がりにも期待が高まります。

## 民生委員が伺います

### 深沢地区社協給食事業

深沢地区社協では長年にわたり、高齢者福祉活動の一環として給食事業を実施しています。今年度は、「高齢者見守り登録制度」に登録している方（約450名）を対象に、民生委員が安否確認をかねて利用の有無をお訊きし、仕出し弁当をお届けしています。

6月は、見守り登録をされている約9割の方が利用されました。次回は10月12日を予定しています。



「鮭と彩り野菜の茶々のり弁当」大好評！

## 車いす貸し出します（無料）

問い合わせ／深沢支所内  
深沢地区社協事務局まで  
事前に予約してください。

## 深沢の今昔 12

### 水争いと夫婦池

夫婦池（めおといけ）には、江戸時代、1655年頃から200年にわたって繰り返されてきた笛田村と手広村の水争いの歴史があります。広い水田耕作地をもつ手広の用水は天水と湧水が主で、十分に水を確保することは常に難しい状態にありました。

1658年に深沢の代官成瀬五左衛門により、笛田の池の谷に溜池「下の池」が造られ手広にも流しましたが、日照りが続いたりすると用水の確保ができず、1717年には笛田に無断で堰を造って手広の田に引いたことで争いがおき、江戸表の評定所の裁決を仰ぐこととなりました。以後長い間水争いが続き、大審院までいく裁判沙汰になりましたが、1883年に手広村の費用負担で「上の池」と呼ばれる溜池を造ったことでやつと和解が成立し、いつしか村人たちは親しみをもって、この二つの池を「夫婦池」と呼ぶようになりました。



現在の写真(下の池)  
鎌倉市鎌倉山2丁目2番2号

## 教養センターの文化祭

10月22日(土)9時30分～15時

作品展示・即売、体験会、食品販売、ブックバザー(リサイクルバザーは実施せず)

お問い合わせは教養センター

電話(32) 12221

## 編集後記

発刊当初から関わってきた木本悦子さんがおやめになりました。長い間ありがとうございました。

新たに徳増さんが加わりました。

広報「ふかさわ」編集委員

石渡美砂子 木村清美 斎藤眞子

杉山昌美 徳増英夫